

## 第6回中野区自殺対策審議会 議事録

日時 令和5年9月5日（火）午後7：00～8：40

会場 中野区保健所 別棟

出席者

### 1.出席委員（13名）

大塚 淳子、白川 毅、小林 香、濱 玉緒、小松 美和、大倉 晴子、井上 直之、竹内 秀之（代理：若尾）、澤根 勝彦（代理：竹本）、松田 和也、秋元 健策、齊藤 光司、曾我 竜也

### 2.欠席委員（2名）

吉成 武男、遠藤 純子

### 3.事務局（3名）

保健予防課長 鹿島 剛

障害福祉課長 辻本 将紀

中部すこやか福祉センター担当課長（所長） 鈴木 宣広

## 【議事】

### ○事務局 鹿島課長

それでは、定刻になりましたので、ただいまより、第2期第6回中野区自殺対策審議会を開催いたしたいと思います。

この審議会は現在、委員の半数、8名以上の出席が必要という条件がありますが、本日は11名参加をいただいておりますので、審議会の成立条件を満たしておりますので、開会いたしたいと思います。

審議会の運営につきまして、審議会は、中野区自殺対策審議会条例第6条の規定により、個人情報保護などの特別の理由がなければ、積極的に公開し、透明性を確保することが原則となります。ご異議がなければ原則公開とし、傍聴も認めたいと思います。

また、議事録につきましても公開させていただきます。しかしながら、個人情報に関することなど、公開を控えたほうがよい情報につきましては非公開として取り扱いますので、ご発言の前にお申し出ください。

なお、議事録の作成のため、審議内容を事務局が録音することに関しましても、ご了承願います。

また、本日、事務局の佐藤保健所長は体調不良のため欠席させていただきます。

それでは、私の議事進行役はここまでとさせていただきます、大塚会長に議事をお渡ししたいと思います。大塚会長、これからの進行をよろしくお願いします。

### ○大塚会長

ありがとうございます。9月に入りましたが、未だ暑い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。所長が体調不良でご欠席と伺っております。

本日、傍聴はいらっしゃいますか。

## ○事務局

おりません。

## ○大塚会長

いらっしゃらないということで、よろしいですね。

それでは、次第に沿って進めてまいります。まず、前回からの経過を簡単に確認したいと思います。前回、第5回の審議会では、第2期の自殺対策計画の素案を皆様にご確認いただきました。その後、素案が6月に区議会に上がりまして、7月24日と8月5日に区民の皆さんから直接意見をいただく、意見交換会が実施されました。皆様のところにもご案内があったと思います。

本日は、意見交換会を経て、計画（案）となった内容の最終確認がメインということになっております。この後、今度パブコメ募集の段階に移りますので、ご意見がありましたら、本日お寄せください。よろしく願いいたします。

それでは、事務局から配付資料、ご確認をお願いします。

## ○事務局 鹿島課長

それでは、お手元に配付しております資料の確認をさせていただきます。表紙に目次がありますが、配付資料、資料1、それから資料2、意見交換会実施結果報告書、それから資料3、第2期中野区自殺対策計画、今度は（案）になります。この案、今日は、非常にページ数が多いので、変更箇所のみを印刷してお配りいたしております。資料4、第2期中野区自殺対策計画の概要です。

以上となります。不足のものがございましたら、事務局までお申し出ください。大丈夫でしょうか。

## ○大塚会長

ありがとうございます。事前に計画案を送信いただいていたのですが、77ページぐらいありまして、印刷を躊躇して、データで眺めていたところですが、どうしても確認したいということでしたら、事務局から提供できるということですので、お申し出下さい。

続きまして、資料の内容をご説明いただきます。事務局からお願いします。

## ○事務局 鹿島課長

それでは、事務局より説明させていただきます。

まず、資料2をご覧ください。こちらは、先ほど大塚会長からもご説明があった意見交換会の実施結果報告書となります。

7月24日、8月5日の2日間で、区民の方からご意見を聞く場を設けましたので、そこで挙がったご意見と、それに対する区の回答、意見交換会を経て変更した箇所についてご説明いたします。

当日の区側の出席者は、佐藤保健所長、それから私、保健予防課長、教育委員会齊藤室長、生活援護課の葉山課長、子ども・若者相談課の菅野課長の5名と事務局職員3名となりました。

参加者人数は、7月24日は1名、8月5日は2名の計3名でした。

素案の内容をご説明した後、意見交換会という流れで実施しましたが、各日とも参加人数が少ないこともあり、ざっくばらんにディスカッション形式でご意見をいただくような形式となりました。ディスカッションの中で抽出された意見や要望をまとめております。2日間のディスカッションの中で、大きく分けて、子どもの自殺について、2番、区の計画の広報について、3番、自死遺族支援についてのテーマが挙げられました。

1、子どもの自殺については、子どもの自殺のきっかけや原因について、自殺に至らずに済んだ事例や、そのための働きかけ、保護者への働きかけ、小・中学生向けの自死遺族の思いを聞く機会についてなどの意見が挙げられました。

区側の意見や回答は資料に記載のとおりです。少しお時間を空けますので、お目通しください。——よろしいでしょうか。

子どもに関する自殺についてのご意見があったため、主に齊藤室長よりご回答いただきました。ありがとうございます。齊藤室長より何か追加の事項がありましたらお願いいたします。

#### ○齊藤委員

各学校は非常に丁寧に子どもたちの様子を観察しています。特にコロナでマスクをしているような状況が長く続いていたので、子どもたちの表情を読み取るということがなかなか難しい時期もあつたりですとか、会話そのものを積極的にできるような雰囲気は少なかつたというようなところもございまして、子どもたち一人一人からしっかりと個別に話を聞くような機会というのを各学校とも工夫しながら持ってもらえているかなというふうには思っています。

先生方も大変お忙しいんですけども、ちょっとした子どもたちの行動だったり、態度などでも変化を先生方はきちんと感じ取って話をしたりですとか、または保護者のほうから、家庭の環境がちょっと変わったなんていうことで、例えばお母様がかなり重い病で入院を長くせざるを得ないような状況になっているなんていうふうな連絡が学校のほうに入ったりするようなケースもございまして、そういうときはきちんと子どもたち、全体のところではなかなか声かけは難しいんですけど、個別に呼んで、本人が何で困っているかですとか、どんな悩みを抱えているかといったこと、それから、やはり友達関係で悩む中学生などが多いので、そういうところはスクールカウンセラーをはじめ養護教諭なども、情報をキャッチした場合は担任なり学年の教員にもすぐ連絡をして、対応ができているかなというふうには思っております。

ただ、やっぱり不安定なお子さんが非常に多いので、今、SNSでの相談というのを子どもたちのタブレットには入れているんですけど、結構毎日いろんな書き込みがあつて、本当に普通の相談だったり、愚痴みたいな、軽いものの中にはあるんですけど、ちょっと深刻だったり、危ないなというようなケースもあつて。個人が特定できるものではないんですけど、学校のほうに連絡を入れると、ああ、それはあの子だなということで、大体先生たちはキャッチできているので、本人には気づかれないように別の理由をつけて、すぐその日のうちに呼んで話をしてもらつたりなんていう取組ができていますので、比較的子どもたちへの見守りというのはできている状態かなというふうには思っているところです。

曾我先生のほうで何か補足があれば、実際の学校現場の中で。

#### ○曾我委員

9月1日から授業が始まりましたけども、やはり連絡が取れないご家庭というのは数件あります。大体不登校のご家庭で、多くは小学校から不登校を継続しているお子さんですね。9月1日、登校日、連絡がないご家庭に連絡して、ほぼ連絡は取れるんですけども、やはり2件から3件ぐらいはなかなか連絡が取れない。大体母子家庭が多いのかなというところでありまして、現認確認できない状況がやはりあるというのが中学校の現状かなと思います。その場合には家庭訪問していきますけども、教員が家庭訪問しても家までには入り込めないのが、ブザーを鳴らしても反応がない場合には、教育センターあるいは警察のほうに相談しながら現認確認ということで、現時点では全て現認確認して、不登校ですけど、しっかりご家庭にいるということを確認はしております。

そういった中で、やはり自殺傾向のある生徒の今までの特徴は、学校でのリストカットですかね。学校でも家庭でもそうですけども、リストカットの生徒はやはり数名いるというところがありますので、その辺は常に気をつけながら見ているというところもあります。

あとは、お子さんの様子が変わつたというところで、いろいろご家庭と連絡を取っていると、やはり

家庭環境が変わってしまった。夏休み中に家庭環境が変わった。離婚をされたとか、そういうところが多いんですけども、やはり夏休み中にいろんな部分で、子どもにとっても環境が変わってしまっているというのは、9月の段階で教員たちからも情報としては入っております。

その中で、自殺につながるというところまではやはりないのかと思ってはいるんですけども、今、ちょっと1名、統合失調症という診断を受けた生徒につきましては、要注意というところで、関係機関と連携を取りながら、家庭とも連絡を取りながら、日々連絡を取って生徒の状況を確認しているというような状況が続いています。

以上です。

#### ○事務局 鹿島課長

齊藤室長、それから曾我委員、ありがとうございました。

続いては、②の区の計画の広報についてです。このような計画や自殺対策の様々な事業を行っていても、区民には浸透していないという意見が挙げられました。駅前などの広報、人の目につきやすい掲示板での広報、サラリーマンなどの勤労世代への広報について、ご意見、ご要望が挙がりました。区としても、ご提案いただいた駅前や掲示板などの広報を適時適切に取り入れる方針をお伝えしました。

続いては、③自死遺族支援についてです。自死遺族の思いを伝える場を設けること、いわゆる自死遺族の集いの場ではない形の支援の必要性について意見が挙げられました。区としても、自死遺族の方の負担にも考慮しながら、思いを伝えられる手段などを模索していくことなどを回答いたしました。

以上の意見を受け、素案に変更を加えました。

一つ目は、普及啓発について触れている部分に「区内主要駅での啓発を実施する」を追加しました。

二つ目は、残された人への支援の部分に自死遺族向けリーフレットの事業を追加し、そのリーフレット内に遺族の思いなどを掲載し、手に取る人の思いに寄り添うものを作成する予定です。

もう一つの事業として、職員向け自殺対策人材育成事業にて、テーマの一つとして自死遺族支援などを取り扱い、職員の相談対応力向上を目指します。

#### ○大塚会長

ありがとうございました。2日目にお二人お見えになったということでした。これは純粋に区民の方、それとも何か関係者の方でしょうか。差し障りのない範囲で教えていただいてもよろしいでしょうか。

#### ○事務局

関係のある方と、区民の方お一人ずつです。

#### ○大塚会長

ありがとうございました。人数ではないとは思いますが、幾つか意見をいただいたということで、実際に変更も出たということですね。皆様から確認やご質問とかありますでしょうか。

いかがでしょうか。

一つ広報に関して、細かいことをすみません。中野区内の全ての駅というのは幾つありますか？

#### ○事務局 鹿島課長

JRは二つですね。あとは丸ノ内線と西武新宿線と……

(区内の駅は14か所)

#### ○大塚会長

大江戸線。大体10か所ぐらいでしょうか。これは駅の掲示板ということになりますかね。駅での広報というのはどのようなことを想定してますでしょうか。

#### ○事務局 鹿島課長

あと、駅の近くにある区の広報板も含めております。

#### ○大塚会長

なぜお伺いしたかという、駅ってせわしく人が動いて、なかなか立ち止まって見るというのはないような気がします。駅そのものって結構通過してしまう場所という感じがします。目にするとしたら、区報やタウンマップとかがいろいろ置いてある、あの辺かなという感じはあるんですが、掲示板ってずっと通り過ぎてしまう感じが、どのぐらいの効果があるかなと思います。バス内には意外と中野区の広報が載っているんです。給付系のお知らせが多いんですけども、バスの中は10分、15分座っているものですから、意外と目に留まるんですね。広報は目に留まらないといけないので、その辺の工夫も少し、議論できたらよいかと思います。効果の高い区民の方に届くような方法が考えられるといいかなと思います。

あとは、ぜひ区報の中でいい紙面を取れるように調整いただきたいなとも思います。でも最近、皆さん紙媒体は見ないのでしょうか。

ほかに皆さん、何かありますか。

#### ○秋元委員

広報に関しては、おっしゃるとおり、掲示板をご覧になられているという方が意外と多いなというのは社会福祉協議会のほうでも考えていることですね。どの掲示板かという、区の掲示板ですね。緑のとか、赤いですけど。結構目立つ形で、ほかに広報物がなければ意外と目立つと思うんですけども、あと、町会・自治会の掲示板の協力とかも、意外と掲示板というのは見ている……

#### ○大塚会長

まちの中のところですね。

#### ○秋元委員

そうです。まちの中ですね。あと、SNSに偏っているということで伺っていますけど、SNSは必須だと思いますので、これはより広く、より広くといっても、SNSに掲載すればもうオーケーだと思うんですけども、これは力を入れて今後もやっていただきたいなと思います。

#### ○大塚会長

ここにお集まりの皆さんの所属団体が出していらっしゃる広報紙とか、SNSとか何か発信媒体がありますね。医師会や、社会福祉協議会には媒体がありますよね。せっかくなので、そういうところとも時折交ぜていただくような企画も考えられるといいのかなと。商工会もあると思いました。

#### ○白川委員

医師会の広報、新聞も毎月あって、なかなかネタに困っているようです。ただ、誰かが書いてくれなければいけないというがあるので、もしどなたか区の方が今回の意見交換会について、こういうことがあったというのがもしあれば、多分飛びついてくれるんじゃないか——いや、僕の権限じゃ決められませんけれども、広報部の、もしそういうのがあれば、つなぐことはできますので。内容からすると、非常に広報する必要性、それは医師会の会員には絶対、あと、区役所にも来ていると思いますので。ただ、じゃあ、あなたが書いてと言われるとちょっとあれなので。もしそういうのがあれば、100%大丈夫とはちょっと言い切れませんが、もしそういうのがあったら打診することはできますので、何かあったらお声がけいただければ。

#### ○大塚会長

ありがとうございます。どうぞ皆さん、インフォーマルなソーシャルサポートネットワークをぜひ活用していただくとよいと思います。民児協も便りは結構出していますね。

## ○大倉委員

そうですね。出していますね。地区でも。民児協としてはそういうたよりを1年に3回ずつ。

## ○大塚会長

かなりの部数出ていますよね。

## ○大倉委員

そうですね。学校にも分けたり、いろんなところに。二つに分けたり、いろんなことをしていますけど。

## ○大塚会長

ぜひ有効な資源をご活用いただいてというふうに思います。どうぞよろしくお願いします。

次に何か意見交換会があるときには多くの参加があるといいと思います。

それでは、続きまして、資料の3に入ってくださいいいでしょうか。お願いいたします。

## ○事務局 鹿島課長

それでは、資料以下の説明を再開させていただきます。資料3をご覧ください。第2期中野区自殺対策計画（案）となります。

計画（素案）から大きく変更した部分はありませんが、表、グラフの調整や、先ほどの意見交換会の意見を受けて変更した部分がございます。変更箇所は赤字、赤枠となっておりますので、その部分を中心にご説明させていただきます。

まず、2から3ページをご覧ください。国と東京都の自殺者数の年次推移の表ですが、平成8年からの数値を入れ、より長期間の推移が把握できる表に変更いたしました。

8ページをご覧ください。統計データについて、より詳しい説明を記入しました。

15ページをご覧ください。新型コロナウイルス感染症の発生前後のグラフですが、視覚的に比較ができるよう左のパーセンテージの目盛りを合わせました。

次、27ページをご覧ください。中野区の自殺の現状と課題のまとめですが、見やすいように形式を変え、項目ごとに現状と課題をまとめました。

次、35ページをご覧ください。計画の数値目標、施策ごとの成果指標について、分かりやすく一覧表にまとめました。

36ページをご覧ください。先ほどの意見交換会で変更した事項でお伝えしましたが、下から二つ目の自殺対策強化月間における啓発に「区内主要駅での啓発」を追加しました。

38、39は軽微なあれなので、省略させていただきます。

次、52ページをご覧ください。残された人への支援として、先ほどの意見交換会で追加した事項や、「中野区版自死遺族向けリーフレット」「職員向け自殺対策人材育成事業」を追加いたしました。

また、資料4については、意見交換会において計画が一目で分かるような概要版にして配付したものです。簡単にお目通しいただければ幸いです。

変更点は以上となります。

## ○大塚会長

ありがとうございます。先ほども申し上げましたように、前回からの変更点を抜粋したものが今配られているものということになります。主に赤字で書かれた部分ということになっています。

次の審議会の際は、パブコメが終わった後となりますので、なるべく具体的な言いぶりに関してのことがいいと思いますが、何かここでまだ差し込みたいとか、ちょっと修正をということがあれば、ぜひ教えていただきたいというふうに思います。いかがでしょうか。

ごめんなさい。確認ですけども、今日終わったものを、案としてパブコメを取る感じですね。

**○事務局**

その前に議会が入ります。

**○大塚会長**

パブコメを取るときというのは、電子データで全部見る形ですよ。

**○事務局**

区内の施設、区民活動センターなどに紙の冊子で何冊か置くような形にしています。それに加え、ホームページ上に電子データを掲載します。

**○大塚会長**

区民の皆さんは、パブコメを出したい人、出せる人、確認する人は、ほぼ皆さん電子データで、ホームページで確認していく感じですよ。

**○事務局**

そうですね。区の施設に行かなければ、データで見るというふうになります。

**○大塚会長**

そのパブコメを募集するときの説明書きには、その後の流れについても入りますか。

**○事務局**

今後の経過というところですかね。まだ計画に載っていないものに関しては、説明文で説明していくことになるかなと思います。

**○大塚会長**

パブコメ募集のリード文みたいなのところということですね。

**○事務局**

そうですね、リード文のところ。

**○大塚会長**

ここにあって予定を入れないほうがいいということですね。

**○事務局**

そうですね。一応こちら（計画案）には、終わって、確定したらといいますか、終わったものを入れていくという形になります。

**○大塚会長**

ありがとうございます。

皆さん、どうでしょう。27ページの分かりやすいようにしてくださったというのは、これはカラー版で入るものですよ。分かるかもしれないんですが、先ほど課長は現状と課題とおっしゃったんですが、要は水色の部分が現状で、オレンジのところは課題ということなんだと思うんですが、どこか端っこのほうに、上段が現状で下段が課題とか、ちょっと断りを入れておいたほうが親切かなと思ったのが1点です。

それから、36ページのところの先ほどの啓発のところなんですが、先ほどからの皆さんのご意見も踏まえて、「区内主要駅での啓発を実施します」で終わらず、「するなど伝わりやすい広報の仕方を工夫します」というように表現を広げておくのはどうかなと思いました。

少し時間を取ります。特に気になる点とかないでしょうか。

**○大塚会長**

前々回ここで、中野は大学生と専修学生が増えていますという話だったんですけど、今の直近の実数は減っているけど、母数も減っているからということですか。中野の現状のときに、東京都は大学生とか専修学生が増えていて、中野も同様に大学生とか専修学生が増えていますとお話を伺ったような気がしたんですけども。

**○事務局 鹿島課長**

自殺された方は全数把握ができるんですけど、実は、その母数がどれだけいるかという統計がありません。中野区に大学生が何人いるのかというのは、正確な数が出せません。

**○大塚会長**

全部の就学生ですよ、大学生だけじゃなくて。

**○事務局 鹿島課長**

そうですね。難しいですね。

**○大塚会長**

皆さん、いかがでしょう。

**○事務局**

ほかの自治体のほうでも大塚先生は、計画の策定の部会に出られていると思うんですけども、練馬区さんとかだったと思うんですが、SDGsの考えを導入するなどの動きはありますでしょうか。

**○大塚会長**

国が今回、SDGsの取組に自殺対策が資するんだということをお綱に入れましたので、各自治体にもそれを盛り込むようにというのがあります。若干唐突感がありますが、誰一人取り残さないというのがSDGsのスローガンですので、当然自殺対策も該当します。2030年までで、今、世界中でSDGsを推進していますから、入れて問題はないかと考えます。具体的な何か計画ということで入っていたようには思いません。理念というか、取組の基本の考え方の辺りに入っていたかなと思うのと、あと、拾えそうなところをちょっと引きつけて入れていたかなと思います。

**○濱委員**

すみません。SDGsの何番ぐらいに入るのでしょうか。

**○大塚会長**

SDGsは17目標ありますけども、3つ目の目標が、全ての人に保健と福祉をということになります。また、教育とか経済格差の辺りも入ってきていたり、薬物とか依存症のことなどもあります。そう拾っていくと、自殺対策はかなり関連項目があります。趣旨としては別に違和感はないので、入れ込み方かなという気がします。国の方針ということもありますが、区民の中には逆に、自殺対策よりもSDGsのほうがもしかしたら身近な方もいらっしゃるかもしれないですよ。

**○事務局**

例えば区長の冒頭の挨拶の部分など、そういったところへ少しそういった考えにも沿っているというような形で触れるという辺りかなと思います。上手く織り交ぜていければと思います。

**○大塚会長**

日本でも、LGBT、ジェンダーの問題であるとか、子どもの虐待の問題であるとか、お母さんたちのケアの問題であるとか、ヤングケアラーの問題とか、いろいろ絡むかなと思うので、無関係ではないと思います。なので、ぜひ中野としても考えていくぞという形で入れられるといいと思います。

**○事務局**

ありがとうございます。

#### ○小林委員

ちょっと、細かい文言とかの話じゃないんですけど、この間のZEROホールの地域包括ケアのあれに出ていて、ちょっと今日で気になったんですけど、ヤングケアラー支援で、居場所をつくるとか、話せる場所をつくるとか、いろいろそういう具体策が出ていたんですけど、実際にヤングケアラーの問題の解消というのは、自治体としてどのぐらい解決できているのかなというのがすごく気になったんですけど、その辺はどうなのでしょう。

#### ○事務局 鈴木課長

すみません。正確にお答えできる所管のメンバーがいないので、実態のお話はちょっとお答えは難しいんですけども。一般論ですけども、やっぱりなかなか潜在化することもあるんだらうと思いますので、ヤングケアラーの実態把握ということだけでも、それはかなり大きな課題だろうなと思っております。

#### ○小林委員

例えば生活保護とか、そういうふうにはっきり対策が分かっているものだったら、介入しやすいとか、アウトリーチで、これはこの方法がありますよというふうに。この間ずっと聞いていても、どうもその辺が、どう解消されているのか、どうすれば解消するのかというのが分からなかったの。せっかく自殺対策の中のヤングケアラー支援を出しているの、ちょっと気になった。一応それだけなんですけど。

#### ○大塚会長

ありがとうございます。全国的にはヤングケアラーが常套句になり始めているぐらいな感じですね。本格的なケアが必要な親御さんたちのケアが不足しているから、ヤングケアラー問題がある形ですね。多くは学校の先生たちが出会う可能性がありますね。そのほか医療機関のスタッフとかね。自治体によって、実態調査や、居場所、条例づくりが始まっていますね。今、先生がおっしゃったように、地域包括ケアで入っているんですが、教育関係でも連携されるといいかもしれませんね。さっき齊藤室長がおっしゃっていた、お母さんが急に病んじゃって入院したとか、結局そういう時のサポートですよ。

#### ○曾我委員

第二中学校は、月に隔週で放課後にNPO団体がヤングケアラーの相談に入っています。放課後ですけどね。子どもたちは自由に行って、お茶が飲めるとか、そういうので行くんですけど、そういう中から話をしていく中で、いや、実はというところで、2名つながって。一つの家庭は外国系の方なんですけども、お母さんがなかなかやはり忙しくてご飯を作れないというところで、NPO団体のほうから食事を提供しますということで、家族数のお弁当が定期的に届くということですね。あとは、その後は結局、子どもを介して保護者の支援が始まっていくという感じですかね。

もう1件は、やはりお母さんが精神的に病んでしまっていて、お子さんがお母さんがとても心配なので、学校に来られなくなってしまって、お母さんの病院に通院のときに行くとかですね。それがやっぱり頻繁に起きることによって、結果的に不登校になってしまって、そこから関係機関につなげて、今、お母さんのケアをして、子どもは逆に、中学校でやっている不登校対策事業のほうに来て、教室には入れないけど、不登校対策のサポートルームというところでケアしてもらいながらというところもありますので。

NPOの子どもたちも話すんですけど、どうしても最初の情報収集をする、子どもから、子どもからと言うんだけど、なかなか子どもが「僕、ヤングケアラーです」なんて言う人はいないんですよ。だから、「あなたはヤングケアラーですよ」ではなくて、「なるほど、そうなのね。じゃあ、今度ちょっ

とお母さんと話できる」というふうにつないで、結局、親御さんが支援を知らないので、いろんなことを教えてあげて。まだ2件だけですけど、そういう形でのヤングケアラー事業というのは中野区でも、学校でも進めているところはあります。

ただ、やっぱり子どもにアンケートを取ってもなかなか、それがどう成果につながるかというのは学校としてもちょっと分からないので、子どもの結果を通じて学校が知って、それを保護者につなげて、保護者のケアにつながらないと、なかなか難しいなというところはありますね。

#### ○大塚会長

そのNPO団体は何ですか。フードバンク系とか、子ども食堂系とか。

#### ○曾我委員

子ども食堂にもつながっています。東京都から委託を受けて、活動場所を探していて、教育委員会の相談もあって、うちの放課後を貸しているという形なんです。

#### ○大塚会長

ヤングケアラー支援をうたって入っているわけじゃなくて、何か困り事相談ありませんかみたいな感じですか。

#### ○曾我委員

そうですね。放課後サロンといって、自由にお話ししましょうというところと、あとはパソコンにたけた人がいるので、タブレットの使い方とか教えてあげますよというところから入って行って、いろいろ情報を収集しているというようなところなんですけど。

#### ○大塚会長

そういうソフトアプローチも、スキルもきっとまた必要なんだろうなと思います。

てにをはの問題で、ごめんなさい。リーフレットの中で、「自死遺族の想いが掲載された専門の相談先を紹介するリーフレット」という表現の部分、もう少し分かりやすい表現をお願いします。

また、ここで議論すべきことなのか分からないんですが、最近、言葉のとげを柔らかくするために、メディアも含めていろいろ表現を工夫しているなと感じるところがあるんですね。ここの中にも「自死遺族」は「自死」と使っていますが、対策のほうは「自殺対策」と表現していて、政策資料なので仕方がないかなと思うんですけど。さっきのソフトスキルじゃないんだけど、区民の皆さんに届いたときに、私はそのテーマと関係ないわと遠ざかるのではなくて、我が事として感じてもらえるような柔らかい表現、かつ、浸透していくというようなものをどうやって考えていけるかなと悩みます。今後、広報・啓発の課題として、考えていけるといいんじゃないかなと思います。

#### ○事務局

計画名は第2期中野区自殺対策計画と書いていますが、ほかの自治体によっては、例えば「こころといのちのサポートプラン」とか、そういった名前。本来の正式名称はこれだけ、愛称などを付けるような考えもあります。

#### ○大塚会長

サブタイトル。

#### ○事務局

そういうサブタイトルであったり、別称をつけることもできるので、その点についてはまだ検討ができるかなと思います。

#### ○大塚会長

では、ご発言いただいている方に、何でも結構ですので、ご発言いただこうかなと思うんですけど。

お願いできますか。

#### ○代理 竹本 氏

すみません。野方署の澤根がちょっともう異動しております、私、代理で竹本と申します。

特に私のほうから申し上げるようなことはないんですけども、ヤングケアラーとか自殺の問題というのは、根っこが深いといいますか、経済の問題だったりとか、結局は、子どもの自殺については大人の問題。子ども同士のいじめということもありますけれども、根本的には親の問題を引きずっているとかということが結構あるので、もっと広い範囲からの対策が必要なのかなというふうには思います。

#### ○大塚会長

ありがとうございます。

#### ○代理 若尾 氏

中野警察署の若尾と申します。

ヤングケアラーの問題じゃないんですけども、お母様がちょっと精神的に病んでしまっている方のお子さんが、やはりお母様も何をするか分からないから学校に行けなくなってしまったという方がいらっしやったんですが、お母様が家の中で暴れたりとかして、私たちが行くようなこともあったんですけども、そのときに、お子様はお母さんのそばにいなきゃいけないからどこにも行けないのかなんですけども、こちらのほうとしては、子どもはやっぱり学校に行ったりとか、普通の生活をしなきゃいけないんだよと言うと、思い詰めてしまって、ちょっと泣き出しちゃったりとかされたことがあったんですけども。

やはり何とかお子さんが普通の生活ができる——家の中に閉じ籠もってしまうと、やはりその子の成長によくないと思うんですね。そのときはお母さんのために、お母さんのためにだったんですけど、それが結果的には、ちょっとお母様も子どもさんにも暴力を振るってしまったので、引き離すことができたんですけども、それがもしそのままの生活が続いていたら、そのお子さんにとってとてもよくないことになったのかなというのがありましたので。やはり発信できないお子さんたちもいるんだということで、学校さんとかがケアしてくれるんですけども、そういうお子さんたちに対して何かできることがあったら、広報活動じゃないですけども、こういうところに相談したほうがいいんだよとか、自分1人で何とかしちゃう駄目だよとかというのをもうちょっと盛り込めたらいいのかなと思います。

#### ○大塚会長

ありがとうございます。

#### ○井上委員

直接この計画案に入るところではないんですけども、普及啓発活動というところは結構お話ができたので。私どもハローワークですが、そこで感じたところだけお話ししたいと思いますけども。やっぱり広報というところは非常に今苦勞していて、難しいところだなと思っていて。主要駅へのポスターとかという話もありますけども、私たちもいろんなイベントであったりとか、事業であったり広報するに当たっては、初めは昔から駅であるとか、人が多いところに掲示するとか、そういったお話はあったんですけど、先ほど会長がおっしゃられたように、人が動くところから見て、それでつながったものというのは、統計を取ったところ、ほぼなかったんですね。なので、やはりついつい人が多いところにポスターとか、そういったものをということで広報というふうに考えるんですけども、今、ほとんどそれって見てももらえないのかなというところは感じております。

私どもハローワークなので、積極的に仕事を探しに来る方が自ら来る場所であるにもかかわらず、ハローワーク内にイベントであるとか求人情報を掲示しても、今、そういったものはほとんど皆さん見な

いですね。見られる方というのはほとんど高齢の方のみで、掲示物を見るというふうには今なくなってきていないかなとなっていて。それは自分の仕事を探すことでもそうなので、そうでもない、そういったもので、ペーパーでも書架に置いてあっても、そういったものも見ないというのが、私どものほうではかなり現状としては正確なものなのかなと。

何をしているかという、もう自分たちから、私たちから届けるようなことを、個人のマイページであったりとか、郵送であってもそうなんですけど、全てこちらから届けないと見てくれないというのが、私たちの仕事からすると感じているところというふうになりますので。年齢にもよると思うんですけど、ペーパーであったりということは、高齢者層にはかかるとは思いますけども、若年層では、まず自分から情報を取りに行くというのは少なく、こちらから与えないと、本人が望むものでも与えないと、効果的には伝わらないというのがあるので。あとは、SNSであっても、本当にその方が興味があるところにたまたま広告が出せるような予算があれば見てもらえますけども、そうじゃなければ全く目につかないというのが現状かなと思いますので。

だからといって、じゃあ、何が一番効果的かと言われると、答えは出ていないところなんですけども、やはり主要駅での掲示とかというところだと厳しくて。あとは二次元バーコードのカードを配布するというんですけども、これも置いておいて待っていても誰も取らないのかなと。何か届ける方策がないと、普及方法というところは非常に厳しいかなというのは感じております。

#### ○大塚会長

ありがとうございます。

#### ○大倉委員

私は民生委員を地域でやっている関係なんですね。問題から外れるかもしれませんが、地域のそういうことをちょっと話させていただきます。

私がこの夏休みに出会った中で、小学校6年生の男の子がいたんですけども、その子が結構うちに何遍も来るようになったんですね。それは、うちにも犬がいて、その子も犬を飼っているということがあったんですけども。夏休みの本当に終わり頃になって、いろいろお話し始めたものですから。そこで、いじめが実は保育園のときからあったんだということで、今はもうそれはなくなったけども、それまでに僕は何回も自殺をしようと思ったということを6年生の男の子が言うんですよ。そこでちょっとびっくりしまして。そんなことを考えていたんだ、この子はと。それを私に言ってくれたんだということがちょっと、この頃特にびっくりしたことでありましたけども。まだ小学生とはいいながらもしっかりしていて、大人顔負けのいろんな言葉を出してくるんですけどもね。いじめた子に対しては、もう本気で、俺がここまで自殺を考えて苦しんできたんだということで、その子と対等にお話をしたということで、学校には言っていないけど、首を絞めてそいつとけんかをしたんだということを夏休みの終わりにお話をしてくださったんですね。

そんなこともあったり、さっきヤングケアラーも出ていましたけども、ヤングケアラーも、うちの東部地区というところでフードパントリーをやったときに、やっぱりヤングケアラーの中学生、お母さんがパーキンソン病を患っていて、それを見ている男の子が中学2年か3年ですね。その子に対しての支援というか、フードパントリーでちょっと持っていこうということで。包括が関わっていたものから、包括を通してやったんですけども。やはり口には出さないけども、僕はそんなに悩んではないということ言っているようなんですけどもね。でも、地域にはいろんな、私たちみたいなおばさんの、母親的な人がいるんだよということで、そこら辺も今年の夏、つなげてみたりしたんですけども。やはりヤングケアラーも確かに分かりにくいというのもあったりして、自分からは声を出さない。中学生も

いるし、高校生も本当はいるんだということで、包括のほうから聞いていますけども、なかなか自分からは私たちに助けみたいなものを求めてこないというのがあるみたいですね。

ですから、地域へ戻ると、例えば障害者の方でも、毎日部屋の中から奇声を発している人がいるんですね。何で俺がこんな、体が不自由なので、そんなことでいつも壁をたたいたり、そういう声が聞こえてくるということで、いつも私たちに相談が来るんですけども。そういう障害者の方の気持ちというのもやっぱり、毎日の自分の体に対してのそういうのがあるんだなということで、周りの方から相談を受けたりしますけどもね。

そんな感じ、地域に帰ると、本当にいろんな意味で、ご自分からなかなか声を出せないような人がいっぱいいるということは確かにありますので。全ての世代に届く普及啓発という意味でも、先ほどおっしゃっていた掲示板とか、町会の掲示板なんかも確かに使ったほうがもっと周知はできると思いますので、町会の掲示板もどんどん使っていただきたいというのがありますし、あと、子どもたちがそうやって、五、六年生からそんなふうに自殺を考えるとということを考えると、やはり子どもにも届くような普及啓発をしないと、本当に倒れてしまうこともありますので。中野はアニメとかも有名なまちでもありますので、アニメとか、そんなことを利用して普及啓発に向けていくみたいなのもいいのかななんて思ったりしますけどもね。

全ての世代に届く普及啓発として、確かに駅でのそういうのもいいと思いますけど、なかなか確かに、駅は通り過ぎちゃうようなところが多いと思いますので、学校で過ごしている中で見られるような情報とか、小さい子どもから、こんなことがあるんだとか、こんなふうを考えなきゃいけないようなところを、子どものときから——私に相談してきた子は保育園のときからいじめがあったみたいで、保育園からずっと6年生頃まで悩んでいたということでは言っていましたけどもね。そんな感じで、いじめという問題はやっぱり自殺にも繋がってくるのだと思いました。それをお父さん、お母さんにお話したのかと言ったら、していないとかと言っていましたけどね。学校には言ったのかと言ったら、学校にも言っていないと言っていましたけども。そんな感じで、自分で秘めちゃうみたいな、自分だけで悩んでいるところがやっぱりあると思いますので。難しいところですけども、そこら辺を普及につながるような啓発をしていただけたらと思います。

#### ○大塚会長

ありがとうございます。地域ではいろいろなことがありますね。

#### ○大倉委員

そうですね。

#### ○小松委員

修正等いただきありがとうございます。1点細かなところで質問です。8ページの赤字で付け加えていただいたところで、書き方が「している」や「されていない」となっていて、ほかのところですます調になっているのは、何か意味はあるのでしょうか。

#### ○大塚会長

8ページの上はですます調なんですけど、追加、修正が、加筆がである調になってしまっています。

#### ○事務局

下のほうの説明のところのことですね。

#### ○大塚会長

はい。

#### ○事務局

すみません。これはミスなので、ですます調に訂正します。ただ、このグラフ、表のところは、体言止めになると思います。

**○小松委員**

分かりました。ありがとうございます。

**○大塚会長**

ありがとうございます。いかがでしょうか。

**○濱委員**

質問させてもらいますけれども、ボリュームのある資料を昨日と今日で一生懸命読んできたんですけど、なかなか、前回のことがどんなだったかなと思い出せなかったので、ほとんどよろしいかと思うんですけど。私もちょっと8ページの、今、この緑の表自体も新しいんですね、この赤枠のところも。それで、別にここがああだ、こうだというんじゃないんですけども、表の中の右のほうの場所というのは、警察庁の自殺統計と厚労省の人口動態統計で、ほかにもいろいろ違う、外国の方を含まないとか。場所というのは、要するに中野区での自殺というふうに言っているけど、中野区での自殺って、中野区で亡くなられたほかの区の方も含んでいるのかなと、ちょっと単純にそんなことを思ったんですけども。その辺はどうなんでしょう。

**○大塚会長**

警察庁がそうです。よく富士の樹海だとか、遠方からわざわざ行きますよね、東尋坊とか。そこは発見地で上がってきますね。

**○濱委員**

発見地と居住地ということは、両方で統計を取るということですね。

**○大塚会長**

はい。

**○事務局**

この計画に掲載されているグラフは全て居住地。中野区居住地である方のものを入れていきます。中野区で発見されたんじゃないくて居住ですね。

**○濱委員**

ありがとうございます。あと、本当に主婦の目線ですけども、駅ではなかなか目に留まらないのではないかということをおっしゃっていましたが、トイレはどうなのかなと思いました。

**○大塚会長**

そうですね。

**○濱委員**

区役所の中にも、もちろん女子しか入らないんですけども、DVの相談を受けますとか、そういう貼り紙がありました。

**○大塚会長**

トイレは有効です。

**○濱委員**

お手洗いはどうなんでしょうというのはちょっと。

**○大塚会長**

メンタルヘルス系の相談のカードとか、小さいシールとか、結構個室トイレでは有効性が高いということで、あちこちやられていますよね。ありがとうございます。

## ○白川委員

資料みたいなものに関しては、実態がこうです、こういうことをしますというのが、もうこれ以上何かというのは難しいのではないかなというのは正直私も思います。ただ、これで自殺が減るとかなんとかというのは、私はあまり個人的には、こういう努力は必要だと思うのですが、やっぱり今日のお話を聞いていても、先ほどの学校で、サロンの中でそういう人が見つかったという先生のお話とかのほうは、私は個人的には非常に心に響きますので。やっぱり現場が一つ一つそういうことを地道に、みんなが意識を持ってやるしか、基本的には。こういうデータはデータとして一つあるのですが、実際本当に施策という形じゃなくて、やっぱり一人一人が地域で泥臭くやっていくしかないんじゃないかなというのが、どのような立場の人でもというのが正直な気持ちです。

マルトリというんですかね。マルトリートメントというのは、恥ずかしながら、最近知ったのですが。実は私の患者さんで、高校1年生で、お母さんが母子家庭で、相手には男性が、内縁の夫みたいな人がいて。年頃のお嬢さんは、その子が小学生ぐらいの頃にも、ちょこちょこ風邪を引いたとかで診察してはいたのですが、高校1年生ぐらいになって、私は胃腸専門なので、食欲がなくなったり、気持ち悪い、吐き気がするという形の、思春期の子、割と多いんですね。やっぱりいずれにしても精神的な何か問題を抱えていらして。結局、母親もやっぱり多少、完全なメンタルの病気というわけじゃないですけど、いろいろとあるという感じのあれで、祖母もかかりつけなんですけど、結局、お孫さんがそういうことになって、母親が専門の精神科にかからせたいということで、分かったということで。それよりもやっぱり、いろいろ話を聞いていると、本人の話を聞いていると、母親の話を聞いていても、「ちょっとあなた、黙って」と言って、本人の話を聞くと、何となくこっちも想像がいろいろ出てきて。結局、大学の専門のところに行ったら、結果がマルトリートメントだという話という。当然だろうなということで。

そういうことで、やっぱり専門の先生について心のケアをしていながらやっていくというようなことと、彼女のお父さん、お母さん——お父さんじゃないんだけど、そういう関係をどうこうするというのは、ちょっともう我々としては限界もあるし、おばあちゃんに何かと言っても、結局、僕が何か言ったところで。そこはちょっとなかなか越えられない線というのはあります。結局、そういうことに一人一人誠意を持って、できる限りのことを対応していく以外にはなかなか。そういうことによって、彼女、そのお子さんも、ひどい状況になったら自殺予備軍みたいな感じになっちゃうんだろうなと思ったりするのを、やっぱりそういう形で一つ一つ、どんな形でもいいから皆さんが支えていくということを長く続けていくことが大切なのかなというふうには私は考えています。すみません。そんな感じです。

## ○大塚会長

ありがとうございます。

## ○小林委員

先ほど曾我先生から中学の話、具体的な話を聞いて、また、いろんな各委員の方々からの状況を聞いて良かったです。

以上です。

## ○大塚会長

ありがとうございます。松田委員。

## ○松田委員

今のお話をいろいろ聞かせていただいて、私たちのところは精神障害者の相談に乗っているところなので、今おっしゃった話だとか、そういった話は日常的に入ってくる場所で、いかに自殺を食い止め

ていくかということを考えていますけれども。お話があったように、そこから先、何かができるかといったら、それがなかなか思いつかない。毎日の業務をやっていくことで、自殺が少しでも少なくなるということに近づいていくのかなと思っていますけれども。最近やっぱり、ヤングケアラーじゃないんですけれども、家族全体を見ていったときには、そういった子どもたちはいるのかなと思います。そういうときに、いろいろと連携を取りながらできればなと思います。

広告の話がすごく出ていたので、興味本位で聞いちゃうんですけれども、やっぱり今日一番びっくりしたのは、意見交換会に1人しか来なかったというのが、ちょっとびっくりしたというのが一つと。でも、考えてみたら、私だってこれまで、自分の区は中野区ではないんですけれども、ほかの区で意見交換会に出たことが一度もないということでございますので、いかにそこをいろいろ広報しながらたくさんの方に来ていただくということが大事なのかなというふうに思っています。

いろんな案が出ていましたけど、確かにいろんな案を出していただいたほうがいいなと思っていますけれども、同時に、お金をぜひかけていただきたいなと思っております。一つの例としては、障害者のいろんな手帳——手帳というのは本当の手帳じゃなくて、今で言うとヘルプマークですかね。ああいったのいろいろ出ていましたけれども、今まで普通のカードのときには全然、広報というか、みんな持っていただけなかったというところがありますけど、赤いのになった瞬間に、この前バスに乗ったら、半分ぐらいの方がつけていたんじゃないかと思うぐらい、たくさんの方がつけているということでは、ちょっとしたきっかけで、ちょっとしたアイデアであれだけ広がっていくのかなと思っていますので。ぜひ、僕も考えますけれども、みんなで考えていけたらと。

以上です。

#### ○大塚会長

ありがとうございます。

#### ○秋元委員

私も松田さんと同じように、1名、2名というのはちょっとびっくりしたので。区のほうの意見交換会っていつもこれぐらいの人数なのかといったら、多分違いますよね。自殺というテーマがちょっと重たいのかなというのは、さっき議論を聞きながら納得しました。

計画の中で社会福祉協議会の事業もいろいろ取り上げていただいて、本当にありがとうございます。いろいろ手直しをしていただいて、中野つながるフードパントリーとかも写真を掲載させていただいて、本当にありがとうございます。

自殺の問題とか、うちが今、力を入れているひきこもりの課題についても、言えることは、やっぱり誰でもリスクがあるということなのかなというふうに思っています。いろんな家庭環境の問題とか、ヤングケアラーなんてまさにそうなんでしょうけども、そういう課題があるということが、実は自分の長い将来の中でそういうことがあり得るということで考えれば、やはり身近な問題というところをどれだけ、実際にそういう立場で自殺を考えている人も含めて、逆にそれを考えていなくても、何か力になりたいと思っている人がいれば、同じリスクを考えたとき、もう少し地域に近寄れるのかなというふうに思っています。

先ほどの広報の問題も、掲示板とか、いろんなことを言いましたけど、やっぱりそのリスクがあるということに気づいた人たちがそういう情報を持っていて、その方たちがそういう相談があったときに、こういうところがある、こういう専門機関があるよとかいう、相談機関の話もできるようになれば、より近い、いわゆる口コミと、一言で言うとそうなんでしょうけども、それが多分一番、私たちが窓口へ行って感じているところです。

先ほど、ゲートキーパー講座とか、いろいろ力を入れていくというところも聞かれましたし、実は社会福祉協議会のこの前の地域包括のシンポジウムなんですけども、ひきこもりサポーター養成講座というのを今年度から初めていますが、これは実は岡山県総社市のほうでかなり力を入れてやられていることで、何か支援するというよりも、ひきこもりの方のことを理解しようという、そういう講習内容だと。ひきこもりの方からの何か発信があれば、それに対して支援に行けるという、どちらかという、積極的に支援していくというより、地域住民の仲間として支援しようという、そういう関係ができてくれば、この自殺のほうの問題にも還元ができるかなど。実際にSOSの発信が、助けてと言えない人たちというところだと思いますので。今後、私たちもそういう取組に大いに力を入れていきたいと思ひますし、今回の計画の内容もそれに沿っている的確な内容だと思います。事務局は大変だったというふうに思ひますけれども、いい計画が個人的にはできたかなというふうに思ひます。

#### ○大塚会長

ありがとうございます。

#### ○齊藤委員

今、学校でSOSを出せるように子どもたちを教育していこうということで、もうここ3年、4年ぐらいですかね、やってはいるんですけど。結局、いろんな支援ができる場所があっても、そこに対して困っているんだということを自分から言っていく、人にいろんなものを相談するという力がやっぱりないと、なかなか助けられる子どもたちも助けられなくなってしまう可能性があると思ひますので。もっともそういうところには力を入れていきたいと思ひますし、実際ヤングケアラーのお子さんたちも、自分が望んでやっているんだ、家族のために自分が役に立っているんだという思ひでやっていて、そのときは決して困っているとか、悩んでいない子が多いんじゃないかなとは思っているんですけど、長い目で見たときに、その子にとって非常にマイナスになってしまうようなケースがあるとは思ひるので。学校のほうでそういうところに気づいてあげるようなチャンスが多いので、そういう、ご家庭への支援というところはどうつなげていくかだと思ひますね。子ども自身を救うとかいう形よりは、きちんとした関係機関が家庭に入って支援をすることで、子どもが少し自分の時間を取れるとか、勉強するチャンスというか、自分がやりたいことができるような場を持てるようになっていくのかなというふうに思ひています。いじめの問題もそうなんですけど、1人で悩んでいてもなかなか解決しないので、大人に相談するということが大事だし、相談してもらえような関係づくりというのを学校の先生方も結構力を入れてやってくださっていると思ひてはいるんですが、まだまだ十分とは言えないと思ひている。引き続きしっかりと、学校の先生方に頑張っていただけるように、教育委員会としても学校の支援をしていきたいと思ひています。

#### ○大塚会長

ありがとうございます。お願いします。

#### ○曾我委員

今お話があったように、本校の生徒は350名ぐらいいますけど、全員自殺のリスクを抱えているなどという視点で見ているはいます。この子は大丈夫、この子は危ないというのは全くなくて、本当に何が原因で自殺するか分からないなというのは我々教員も常に感じていますし、やはり中学生の自殺の一番の要因は原因不明ですから。でも、原因不明なんですけど、実際にいろいろそういう状況になった後調べてみると、必ず原因があるんですよ。だけど、我々は気づけなかった、親も気づけなかったというところが一番子どもたちの自殺の怖いところなので、それをいかに知るかというところですよ。

SOSの出し方というのものもあるんですけど、我々教員がやっぱり知るのが、友達、子どもから、「先生、

あの子こんなことを言っていたよ」とか、そういうところから始まるんですよ。多分、学校以外のところでも誰か気づくところがあると思うんですけども、それがいかにこういう機関につながるかというところが大事かなと思います。やはり行政もNPOも民間もすごくいろんな取組をしていて、もう本当にすごいんですけど、知らない。それはやはり広報につながっていくんだらうなという感じがするんですけども、多分そこが本当に歯がゆいといいましょうか、そうならないとなかなかそういうふうにつながることはないんですけども、そこにどうやってつなげていけばいいのかなというのは、本当にずっと、もう何十年も悩んでいるところであって。中野区は何にもやっていないわけじゃ全然なくて、本当にやっているんです。皆さん本当にやってくれているんだけど、でも、知らないし、つながらない。これは今に始まったことじゃないんですけど、これはやはり日本の課題なんですかね。それから、冊子のほうにもありますけど、こころといのちの相談窓口と、これだけいっぱいいろんなところがあるのに、どうつなげていくかというところが難しいなというところは本当に常々感じています。

今、子どもたちは、ポスターを見て、文字がいっぱいあると見ないですね。やっぱりアニメであったり、キャラクターであったり、ふっと見たときに、タイトルは見ないですね。何か面白そうだなというところ、やっぱり携帯でQRコードで情報を収集していますからね。ホームページを見てくださいと言っても、ホームページを見る子どもはいないんですけど、QRコードがあると見るので。やっぱりQRコードというのは、そういった意味では今の子どもたち、若者にはすごく、広報するには効果が高いかなという感じはします。ぜひここにある相談窓口も、QRコードがあるところが何個かあるんですけども、QRコードを持っているといいのかななんて思いながら。若者たちはそういったところから情報収集していくのかなというのが、今の子どもたちを見ていて感じるところです。文字から情報を得て探そうというのは今の子どもにはなくて、映像であったり、インパクトのある言葉であったりというところから情報収集しているのかなと思います。

あとは、学校はカウンセラーさんとかがいてくれるので、そこにつなげると、やはりこういった機関につなげるシステムができていますので、そういったところも一般の方々にも、核になるところですね。いてくれるのが誰かということが分かるが一番いいのかなと。と考えると、やっぱり中野区ホームページというところにつながるのかなと思いながら。ただ、それもQRコードにつながるの、何かそういうふうにして、相談できないけど、自分で調べる、今の子どもたちにすれば、QRコードって結構必要なかなとちょっと感じていました。

以上です。

## ○大塚会長

ありがとうございます。皆さんからいろいろいただいて、ここで話し合っていることが次につながっていくと思いながら伺っていました。

今、ちょっとQRコードの話を聞きながら、ここにそれこそそういう等身大の子どもたち、中学生委員がいて、意見を言ってくれればいいなんてことも思いました。また、足りないというよりは、実施していることがたくさんあるので、それがいかに実効的になるかに頭を寄せていきたいですね。増やしていくというよりは、十分やっているけども、どう実効性があるものにしていくかが肝心なんだろうと思いました。先ほど事務局からも話が出たんですが、ぜひサブタイトルをつけられるといいかなと思っています。自殺対策という言葉に対して

引いてしまう部分もあるかもしれません。例えばささえあいプランとか、いきいきプランとか、自殺対策は要は生きていくことのお手伝いだと思うので、ポジティブなメッセージが入るような何かテーマとかタイトルがあると、少し何か引っかかってくれる人が増えないかなという感じがしました。

白川先生もおっしゃっていましたが、行政はデータが大事なので、政策をつくるためにはデータは大事だと思うんですが、データの後ろにやっぱり一人一人のストーリーがあるので、最終的には一人一人どうつながるかということがとても大事だと思っています。そのためには広報の力が大きいんだなと思います。困っている人への広報と、味方になってくれる人とつながるための広報とが、違うべきなのか一緒にいいのか、よく分からないですが、井上委員もおっしゃったけど、今、情報は取りに行くより、向こうから来るものがほとんどになっていますね。パソコンとか触っていると、1回触った分野の広告的なものは向こうから何回もやってきますよね、不動産だろうが、家だろうが、靴だろうが、何だか分からないけど。なので、そういうものが区民に届くということがあるときに、マイナンバーもどうかかなと思うんですけど、区民全員が持っているアカウントみたいなものがあるわけではないので。区からやってくる形ってどうやったらできるのかなと思うと、非常に難しいなというふうに思って伺っていました。それこそ新しい駅ができれば、駅の電信柱か何か全部区で買い取って、自分の好きなQRコードを探せツアーみたいなことができないかなと思ったりするんですが。ここは本当に戦略が必要だなというふうに思って聞きました。

あと、やっぱり何回か前に、ゲートキーパーという言葉は重いよねという話も出ていたと思うんですが、認知症サポーターに比べてゲートキーパーって重いよねという話もあったと思うんですけど、この辺もサブタイトルと一緒に、中野区独自のタイトルづけてあっていいと思うんですよね。心のサポーター養成でもいいし、何でもいい。こころちゃんでも何でもいいと思うんですけど、何かシンボルマークとか、そういうものを作っていくとか。我々も頭を柔らかくして、ネガティブなことを対策するために、いかにポジティブで柔らかいものを考えながら、つながる人を増やしていくということかなというふうに、思った次第です。ぜひ、こども家庭庁もできたので、子どもと大人がつながる政策とか、高齢者がつながる政策とかがうまくできていくといいなと思いながら伺っていました。

いずれにしても、もうこれで議会に今日のところの経過を踏まえて報告いただき、これが形になっていきますね。11月ぐらいですか。

#### ○事務局

11月です。

#### ○大塚会長

ということだと思いますので、皆さんから貴重な意見をいただきましたが、事務局から何か今後のこととか、最終のお知らせがあればお願いいたします。

#### ○事務局 鹿島課長

本日も委員の皆様から貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。本日いただいたご意見を基に、各案に修正を加え、案を作成し、9月の議会へ報告する流れとなります。

なお、本日の審議会の内容は、議事録としてまとめ公表いたします。公表前に議事録内容を確認していただきますので、メール、希望がある方は郵便にて議事録を送付させていただくことといたします。

なお、次回、第2期第7回開催日程は、令和6年1月中旬頃を予定しております。大塚会長より、1月15日、16日火曜の2日間候補日をいただいております。今ご予約が分かる方は、帰りがけ、事務局の土屋まで、都合のよい日、悪い日を教えていただければ幸いです。次回の審議会では、11月実施のパブリックコメントでいただいた区民の意見を確認し、反映する部分を確定版の計画をお示ししますので、最終確認をしていただく計画確定となります。

#### ○大塚会長

ありがとうございます。

次回は1月の半ばということですので、今年、令和5年はこれで終わりということになります。よろしいでしょうか。

○事務局

はい。

○大塚会長

それでは、ありがとうございました。お疲れさまでございました。

(閉会)